

令和 4 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	57	学校名	県立掛川西高等学校	記載者	教頭 宮澤 和美
------	----	-----	-----------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
ア	授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成	<p>A 授業アンケート2回の実施と「授業がよくわかる」生徒 60%以上、「授業で力がついた実感がとてもある」生徒 40%以上</p> <p>B 大学入学共通テストの全教科・科目の校内平均点が全国平均点の1割増し以上になる</p> <p>C 測定ツールをとおして把握した分析結果・共有内容に基づき指導改善に取り組んだ教員 80%以上</p> <p>D 1・2年生は、平日午後9時までに家庭学習を開始し2時間以上、休日4時間以上の学習。部活動引退後の3年生は、平日4時間以上、休日8時間以上の学習</p> <p>E 部活動終了時間の遵守と帰宅指導の徹底</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートからも、アクティブラーニング型の授業を積極的に取り入れながら、生徒の主体性を引き出している。生徒たちの授業への満足度もよく、充実した授業が実施されていることが窺え、大変評価できる。教師や保護者の意識もそうだが一番は授業を受けている生徒の意識であると感じる。引き続き授業を中心に主体的な学びと高い学力育成に尽力願う。 ・4つの重点目標（ABDE）において、B以外はほぼ目標値を達成している。授業アンケートを繰り返し、授業改善に努めていると考えられる。 ・充実した授業内容が大学入学共通テストの全国平均点1割増の科目数増加にも繋がっており、生徒の学習時間がある程度確保されていること、授業においてICT機器を活用している割合は実質的に100%に近いこと等、確実に学力の向上に繋がっていることが窺え、教員・生徒ともに多忙な中で充分評価できるものである。 ・非常に良い環境で学んでいるとの印象がある。デジタルの導入に伴う教材の改善が進めば、今後、学習の効率化も図られると思われる。例えば、1時間分の学習に相当する内容が40分でできるかもしれない。「平日2時間」「休日4時間」など学習時間を指標とする目標は柔軟に見直して欲しい。 ・部活動と家庭での学習時間のメリハリをつけ、下校時間を徹底するなど、今年度の取組が更に定着することを期待している。

		F 計画的に本格的AL型授業を実施した教員 90%以上			<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の令和3年度アンケート結果と比較すると、ICTに関する項目の肯定率は上昇がみられるが、「自分の意見等を発言しやすい」の項目では、「そう思う」の回答は50%程度にとどまり、否定率は10%を超えている。AL型授業を効果的にするためにも授業場面、HRの雰囲気づくりに一層の配慮を心掛けたい。 ・今年から1年生がiPadを用意するなど環境整備が進んでいるため、できるだけ授業で活用して欲しい。
イ	高いところざしを育む計画的・体系的な進路指導の推進	<p>A 1年終了時の国立大学希望 9割程度</p> <p>B 2年志望理由書の作成をとおして9割以上の生徒が進路目標を明確化</p> <p>C 大学入学共通テスト5・6教科7科目型の受験割合 80%以上</p> <p>D 教務、研修、進路課が連携してCT、LHR等を改善し、進路とCT、LHRのつながりを持たせる</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職面談の実施や担任の先生方によるきめ細かな進路指導の成果が出ていると思われる。生徒や保護者にとって心理面においても安心できる学校環境が整備されていると感じる。引き続き、生徒と目指す学校像を共有し取組を深化させて欲しい。 ・高い進学率を誇っていると思う。これは進路担当の先生をはじめ諸先生方の進路に向けての徹底した指導の成果であると思う。引き続き指導をお願いしたい。 ・生徒の発達段階に応じて幅広い資質・能力の向上を求める視点から、多くの教科科目を学ばせることは重要と考える。CT、LHR等の学校教育活動全般において生徒の将来を見据えたキャリア教育の推進や、今後も体系的・継続的にブラッシュアップしていくことを期待している。 ・ミニ大学や社会人講話のように、大学受験だけではなく、その後のことを考えられる機会を作って欲しい。 ・引き続きグローバルに活躍する人材輩出に注力して欲しい。
ウ	「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成	A 部活動ボランティア活動参加率 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ボランティアの活動の参加率100%は大変素晴らしいことである。今後は今以上に自ら率先してボランティア活動に参加できる生徒の育成に努めていただきたい。 ・地域社会は生徒の力を頼りにして

		<p>B コロナ禍での開催方法等を工夫し、充実した文化祭を実施する</p> <p>C 探究発表会で 50%のグループが提案の検証結果まで報告する</p> <p>D 学校内外で生徒自ら挨拶ができるよう部活動やクラス等で促す</p> <p>E 1年全生徒にスマホに関する調査・分析・講座を実施する</p> <p>F 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒 70%以上</p> <p>G エンパワーメントプログラム受講希望者 30人以上</p>		<p>いると思う。環境美化活動に偏ることなく、能動的にボランティア活動のメニューを拡充して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文武両道を進めており、生徒の人間性向上に寄与している。 ・重点目標の基準をほぼ達成し、他の成果目標も達成している。探究活動の発表会では、2年生のみならず1年生においても積極的な発表活動の姿を見ることができた。 ・探究学習において、プロトタイプ作成やアクションに繋がったグループが半分以上であり、学校全体で探究学習に主体的に取り組む機運がより一層高まってきたことを感じる。 ・校内での挨拶がかなり積極的であること、CTにおいて社会との繋がりを積極的に作っていること等、高く評価できる。 ・コロナに対する考え方も変わってくるため、様々な経験ができる機会を作るようにして欲しい。 ・スマホの安心・安全な使い方については、動画閲覧時間やゲーム時間等も含めて、スマホ・ゲーム依存にならないよう自律したスマホとの付き合い方を生徒に伝えていく必要性を感じる。成果目標を 80%に上げて指導していただいてもよいかと思う。
<p>エ</p>	<p>豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える</p>	<p>A 地域の要請に応え、イベント参加や地域団体との連携を行う</p> <p>B 「冀北講演会」65%、「芸術鑑賞会」80%以上の生徒満足度</p> <p>C 年間貸出冊数の平均を昨年度よりも高める</p>	<p>B B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掛川市の自慢の学校というイメージがある掛川西高校なので、地域社会への貢献度はもう少し上げていきたい。 ・「講演会 65%、芸術鑑賞会 80%以上の生徒満足度」と目標設定した根拠が気になる。 ・個人ではなかなか触れることができない芸術等の鑑賞の機会は引き続きお願いしたい。 ・コロナ禍における行事の運営には苦労があったと考える。Cの成果目標に関する生徒のアンケート結果の経年変化を見ると、低位に推移している。来年度は重点目標にすることも視野に入れ、結果分析することを推奨する。

様式第 5 号

		D SHRや学年集会等の機会に人権意識を育む働きかけを行う			<ul style="list-style-type: none"> ・中学校もそうだが、読書活動の充実を引き続き進めていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、問題なく各種事業を実施できたことが評価される。昨今、多様性が重要視されてきているため、様々な視点で人権教育の機会を設けて欲しい。
オ	4つの資質・能力を育成するためのカリキュラムマネジメントの実施	<p>A 職員研修会 5回（情報セキュリティ、BYOD、探究、カリマネ、防災）</p> <p>B 年間2回の生徒、教師対象アンケートを実施し、資質・能力育成の検証を行う体制を確立する</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・達成状況を見ると成果が出ていることが読み取れる。Aについては、来年度の結果如何では重点目標から外してもよいと思う。 ・研修課を中心に非常に充実した研修が実施されていることが窺え、評価できる。ICTの活用も引き続き研修し、今後の授業に生かしてもらいたい。 ・特に情報セキュリティなど新興の分野で研修に努めて欲しい。 ・今後さらに情報セキュリティの知識が重要になる。継続した教育をお願いしたい。
カ	安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底	<p>A 教育活動をとおして新型コロナウイルスに感染する本校生徒・職員を0に近づける</p> <p>B 「薬学講座」「健康教育講座」において、しっかり理解した生徒 90%以上</p> <p>C 職員間で情報を共有し、問題の早期発見と早期対応をする</p> <p>D 地域防災訓練への1・2年生参加率 80%以上</p> <p>E 生徒による交通安全の呼びかけを学期に1回以上行う</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大を最小限に食い止めてくれていると思う。コロナ感染症が5類相当になっても引き続きコロナやインフルエンザ等の感染症対策は重点目標として対応が必要である。 ・地域防災訓練への参加意識をもう少し高めたい。毎年何らかの災害が各地域で起きているのが現状である。中高生が各地域の力となって災害時に活動できる体制は今後必要であると感じる。まずは「防災知識」「災害時の対応」等の意識向上が必要である。 ・地域防災訓練への参加の「1・2年生参加率 80%以上」は実現可能性が低い。設定した目標自体にやや無理があるように思う。目標を決める前段階で、意義や狙いを明確にした上で、高いモチベーションで臨める目標を定めるべきだったと考える。 ・地域防災訓練の参加については、コロナ禍で様々な制約があったことは推測できるが、参加率が極端に

		F 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒 70%以上 (再掲)			<p>低いことが気になった。次年度以降、コロナ対策が緩和される中、地域の防災に関心をもち、積極的に防災訓練に参加する生徒が増えることを期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、生徒・保護者とも、高い評価ではあるものの、安全な施設設備及び交通安全指導の項目について、令和2年度以降低下傾向にあるため、分析と対応が必要と思われる。また、地域防災訓練への参加は、自身の身を守ることに繋がるだけでなく、地域と顔の見える関係構築のためにも参加率の向上が求められる。 ・登下校中における被災時の危険箇所避難場所等の把握は重要である。 ・SNS等の情報発信に関する指導をお願いしたい。
キ	学校の実践と成果を積極的に発信	<p>A 部署ごとに定めたHP担当を中心に更新し、昨年度以上の記事更新数を目指す</p> <p>B 高校入試志願倍率 1.1 倍以上</p> <p>C 掛西ラボ参加者 40 人以上</p>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の基準は達成している。地域の伝統校として、学校の実践成果を積極的に地域に発信することは生徒や保護者のみならず地域社会全体に活力を与える。HPの更新やその他の発信手段を活用することに期待する。 ・全国的にも掛川西高校の取組は、ICTの活用・探究の推進・部活動の地域連携等、大変注目されていると感じる。今後も継続的に学校の魅力を発信していく体制を構築していくことを期待したい。 ・地域の自慢の学校であるという意識の元、ICTを活用してどのような教育をしているか、様々な活動の様子や生徒の様子等、外へ発信したらよいと思う。保護者や地域の皆さんも楽しみにしている。
ク	教員の資質能力の向上を図る研究・研修の推進	<p>A 自己有用感に関するアンケートによくあてはまると答える生徒の割合 40%以上</p> <p>B 各教員の他教員授業参観年間 3 回以上</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果に見る教員の肯定的な声掛けの肯定率が漸減してはいるが、A・Dの重点目標の基準は達成できている。 ・全職員による生徒たちへの声かけの割合が 82.5%は大変素晴らしい。常に生徒が教職員から見守られているという安心感があり学校へ行くのが楽しみに感じられるのでは

		<p>C 年 5 回の職員研修実施(再掲)</p> <p>D 職員の不祥事や重大ミス を 0 にする</p>			<p>ないか。教員以外の全職員からの声かけは生徒の励みになると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己有用感が高いことから、様々な取組により、これまでの掛川西の教育が確実に成果に繋がっていることが窺える。 ・職員研修では他校の教員と積極的に意見交換を行うなど新しい知識を入手することにも努めてもらいたい。 ・職員室における風通しのよい環境が、職員の不祥事・重大ミス 0 にも繋がっていると感じる。市外で教職員の不祥事が相次ぎ、風当たりが厳しくなっていると推察する。不祥事 0 を維持して欲しい。
ケ	<p>情報処理システム活用と情報管理</p>	<p>A 個人情報漏洩等の情報事故 0</p> <p>B ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員 90%以上</p> <p>C 情報セキュリティ研修の実施</p> <p>D 複数回のBYOD研修</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き個人情報漏洩等の情報事故 0 へ、危機管理意識を相互に形成することを期待する。 ・ICT活用で様々なことが大変便利になったが、情報の管理が大変であると感じる。不祥事に繋がらないよう引き続き意識を高めていきたい。 ・掛川西高校は、ICT活用における静岡県の先駆的な存在であり、今度も県内のロールモデルとなるような取組が継続していくことを期待する。 ・ICT機器を導入した授業が展開されていることから、CTの発表等においても生徒がスムーズに機器の活用ができていた。 ・ICT機器を使うということではなく、普段から当たり前を使うような環境づくりに努めてもらいたい。 ・重点目標のDについては研修体制が確保されているならば重点目標からの変更もよいと考える。
コ	<p>学習環境の整備と円滑な事務業務の執行</p>	<p>A 大規模災害時マニュアルの更新を行い、防災訓練で職員・生徒に周知を図る</p> <p>B 校内施設・設備の安全を図っている教職員 90%以上</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害時マニュアルの更新をし、校内施設・設備の安全に配慮していることが窺えるが、生徒・保護者の学校施設・設備に関するアンケートの肯定率回答状況は年々漸減している。その理由を把握したいものである。 ・有事の際には、膨大なマニュアル

		<p>C 効果的な予算請求をしている教職員 90%以上</p>		<p>を参照することは困難であることから、縮小版の活用は今後も有効と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつどのような災害が起こるか分からない昨今、今以上に「防災」に対する知識と関心を生徒たちに持たせることが大事である。訓練を通じて意識付けをお願いしたい。 ・防災や節電等、状況が変わる中、教育で取り入れ、より理解を深めるようにして欲しい。 ・BCP（事業継続計画）は継続的な改善が必要であり、定期的な見直しを図って周知する取組を続けて欲しい。 ・光熱費が急騰する中、苦心しながら予算を執行していたことが窺えた。 <p>今後も職員室と事務室が連携し、円滑な事務業務が行われることを期待している。</p>
サ	<p>教職員のワークライフ・バランス</p>	<p>A 教職員は、遅くとも平日 20 時までには帰宅する</p> <p>B 定時退勤日の定時退勤率 80%</p> <p>C 公式大会等がない限り、週当たり平日 1 日以上、土・日 1 日以上、部活動休養日を遵守する</p> <p>D 行政職員の専門性を活かし、学校教育活動に積極的に関わるような新たな業務にチャレンジする</p>	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の雰囲気が大変良いということに安心した。職員の様子はすぐに生徒たちに反映される。教職員と生徒が 1 つになって引き続き教育活動を実践してもらいたい。 ・この項目に関する教職員や生徒のアンケートの肯定率回答状況は年々漸減している。自己評価の成果と課題にも記述してあるように、教職員のワークライフ・バランスについては今度も継続的に改善を図っていく必要性を感じる。 ・適材適所により効率的・効果的に取り組んで欲しい。 ・教員の方々の多忙さが浮き彫りとなる結果となっている。WLBの推進には、業務の改善は必要不可欠と考える。教職員でなければできない業務とそうでない業務の整理や、デジタル技術の活用等により、更なる業務の改善が必要と思われる。 ・意識的な定時退勤を心掛けて欲しい。同時に、今後は市内で中学校の部活動地域移行の議論が本格化するため、地域とのかかわりに関心を持って欲しい。 ・先生方が無理をしたり、体調を崩

様式第 5 号

					したりすることなく、持続可能な学校運営体制を構築していくことを期待したい。
--	--	--	--	--	---------------------------------------